サンライズ・メイト・バートの広報誌
Rising Sun
Vol.100
令和4年7月25日発行
ライジング・サン

訪問介護・居宅介護支援事業所
サンライズ・メイト・バート株式会社
東京都足立区東綾瀬1－22－1　ル･ヴァン綾瀬1Ｆ
電話　03－5697－9895 FAX　03－5697－9896
発行人　代表取締役　井上明美

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役　井上　明美

いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
コロナウイルス第7波・・凄い勢いに愕然としています。「試練は乗り越えらる人にしか訪れない」と言う言葉を聞いた事があります。飽食の時代の中、何か大切にすることを私達は忘れてしまったのかも知れません。もう一度何が大切なのかを想い出さねばなりません。そうすれば、ウイルスと人類の戦いは負ける気がしません。私達の希望の光は消さずに立ち向っていきましょう。本格的な夏を迎え熱中症などにお気をつけください。

サンライズの物語

ライジングサンが発行させて頂いてから100回目となり毎月発行できることに心から御礼申し上げます。当初はケアマネ2人、訪問介護3人で始めた事業所ですが、12年間続けることができたのも、一重に皆様方のお力添えと思います。

弊社は居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、通所介護事業所を営んでおります。

今回は弊社の職員達が働いている事務所内をご紹介致します。

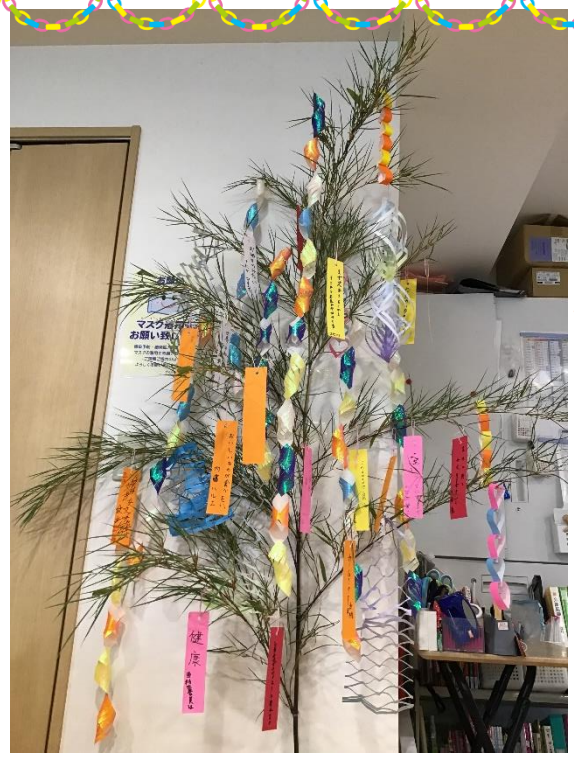
べっぴんさんの事務員4名（偽りありません）と訪問介護職員6名（忙しくて外出中です）
居宅介護支援のケアマネは10名これまたベッピン揃い？？？
容姿ではなくヤル気満々です。

「働きやすさではどこよりも負けません」が売りです・・・

質の高いサービスを提供する為職員一丸となり邁進中です。

私にとって介護職は天職・・・この職業に携われることに感謝感謝です。

サンライズのデイサービス陽光だより



七夕

短冊に願いを込めて、七夕飾りと一緒に吊るしました。お昼ご飯は天の川の見える七夕そうめんを食べました。

NEWS　今月のニュース

どう生きる？ 手帳で始める 加賀市配布 望む暮らし方記す

介護が必要になった時や認知症になった時に備え、自分がどう生きたいかを書き留める「わたしの暮らし手帳」の普及に、加賀市が取り組んでいる。本人らしく最期まで暮らすために市独自に作成し、約２５００部を配布してきた。担当者は「（手帳は）これからの人生をより豊かに生きるためのスターティングノート。ぜひ活用を」と呼びかける。（小室亜希子）

手帳はＡ４判、三十六ページ。前半は認知症に関する知識や医療・介護サービスの流れを掲載し、後半部分が自分で書き込むページになっている。家族構成や自分の歴史をはじめ、友人の名前や行きつけの場所、趣味、食べ物の好き嫌いなど。いずれのページも見開きの左側に書き方の見本を示し、無理なく書き込めるよう工夫されている。

市は二〇〇四年度から、認知症患者に関する情報が詰まったシートをケア関係者が共有し、その人らしい生活が送れるよう支援する取り組みを進めている。だが、相談窓口を訪れる時には既に症状が進行し、本人がどのような暮らしを望むのか聞き取れず、家族も代弁できないケースが多いという。

増刷予定、書き方指導も「ぜひ活用を」

こうした経験を踏まえ、国が各種サービスの流れを示す「認知症ケアパス」の作成を全国の市町村に求めた際、市は本人自ら希望する暮らし方を記載できるよう独自に内容を検討し、手帳にまとめた。一六年度に初版が完成し、二年後の第二版では「がんや認知症の告知を希望するか」「延命治療を望むか」など終末期の内容も充実させた。

「ただ配るだけでは意味がない」と高齢者サークルなどに出向き、手帳の意義や書き方を伝えている。七月初めに市市民会館で開いたセミナーでは、介護予防講座を修了した市民が、意志を書き記す大切さを寸劇で披露。「自分の最期を考えることが、今をどう生きるかを考えるきっかけになる」と呼びかけた。

親子で参加した女性（４６）は「母親の気持ちと向き合う機会になった」、母親（７０）は「子どもたちが将来悩むことのないように活用したい」と話していた。

市は第三版として六千部の増刷を予定する。医療現場での活用も模索し、市相談支援課の西ミキ課長は「医療職が患者に関わる際の参考になれば」と期待している。

「わたしの暮らし手帳」の活用を呼びかける西ミキ課長（左）ら＝加賀市役所で

＜中日新聞 2022/7/30(土)＞

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。http://www.samaba.jp/back-number/